

平成 25 事業年度の業務実績に関する
評価委員会における提言

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る平成25事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

記

【教育・研究】

- 地域医療枠・県民医療枠卒業生のキャリアパス形成について格段の配慮が必要である。
また、一般枠を含めキャリアパスにおける大学院課程での研究のさらなる充実を求める。
- 科学研究費の獲得額は着実に増加しているが、さらにレベルを上げるために、戦略的にトップレベルの研究者をヘッドハントする等の多様な選考方法を含め、教授選考過程の再検討が必要である。
- 研究費の増額や個人の研究者に直接研究費を出すことも検討し、その研究費によりどれだけの成果が得られたか、科学研究費の取得に繋がったかについての評価体制を整備することが期待される。
- 特許出願件数を増加させるため、学内の支援機関の強化と科学技術振興機構（JST）の支援を受ける等の検討が望まれる。

【附属病院・地域貢献】

- 小児医療センターの設置は全国的な流れの中で時宜にかなったものであるが、運営にあたっては、小児科と外科系診療科が協働してあたることが期待される。
- 附属病院本院の患者紹介率、逆紹介率を高める努力が求められる。
- がん対策については、医療設備や医師の増員だけではなく、具体的ながん対策としてどれだけの効果が得られたかという視点でアウトカムを設定し、経年的に評価することにより長期的な視点から評価ができるようにすることが期待される。

- 産学連携は国家プロジェクトを視野に入れ、さらなる高みを目指すことが期待される。

【運営体制】

- 医学部定員増に伴い教員数が増加されているが、教員組織や教員数が適正に配置されているかどうか再検証する必要がある。
- 科学研究費の不正受給を防止するうえで、研究者のコンプライアンス教育は必要なことであるが、機関経理という観点から管理を強化することにより、研究者と事務方の双方でダブルチェックする必要があると考える。
- 1床あたりのインシデント件数は、他の公立大学病院と比較すると低くなっているが、部門別に見るとバラつきが散見されるため、それら全てについて組織全体で精査が必要である。
- 女性の教職員の登用が全国的な課題であるため、ハラスメント対策等と同様に意識改革が必要であり、女性管理職の採用や登用率の目標値を掲げる等の検討が期待される。

【財務内容】

- 診療報酬の請求に対する査定率が高いので、査定率を低減するためのシステムを構築する必要がある。